

# Asia Indicators

発表日:2026年1月9日(金)

## 台湾・12月輸出は底入れの動きに一服感(Asia Weekly(1/5~1/9))

～鈍化基調が続いた台湾の物価に底打ちの兆しが出ている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/5(月)	(シンガポール)11月小売売上高(前年比)	+6.3%	--	+4.4%
1/6(火)	(フィリピン)12月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.4%	+1.5%
1/7(水)	(オーストラリア)11月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.7%	+3.8%
	(タイ)12月消費者物価(前年比)	▲0.28%	▲0.34%	▲0.49%
	(台湾)12月消費者物価(前年比)	+1.31%	+1.30%	+1.22%
1/9(金)	(中国)12月消費者物価(前年比)	+0.8%	+0.8%	+0.7%
	12月生産者物価(前年比)	▲1.9%	▲2.0%	▲2.2%
	(マレーシア)11月鉱工業生産(前年比)	+4.3%	+5.2%	+6.0%
	(台湾)12月輸出(前年比)	+43.4%	+46.0%	+56.0%
	12月輸入(前年比)	+14.9%	+28.1%	+45.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

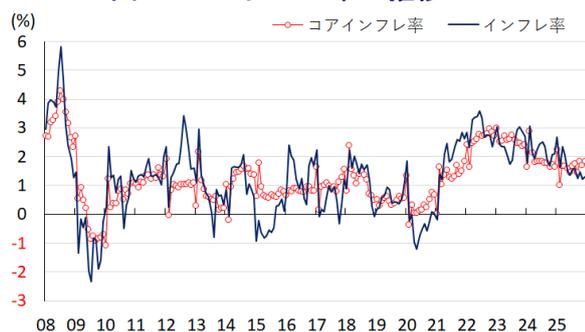
### [台湾]～鈍化基調が続いたインフレが底打ちに転じる兆し、底入れの動きが続いた輸出入に一服感が出る～

7日に発表された12月の消費者物価は前年同月比+1.31%となり、前月(同+1.22%)から伸びが加速している。前月比も+0.07%と前月(同▲0.15%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、国際原油価格の調整を反映してエネルギー価格は下落しているほか、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退する動きがみられる。よって、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.83%となり、前月(同+1.71%)から伸びが加速している。前月比も+0.20%と前月(同▲0.15%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、幅広く財価格が上昇する動きがみられるとともに、サービス物価も上昇基調を強めるなど、全体的にインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

9日に発表された12月の輸出額は前年同月比+43.4%となり、前月(同+56.0%)から伸びが鈍化している。前月比も▲3.2%と前月(同+6.1%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さがうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の生産に一服感が出るとともに、プラスチック関連など素材、部材に関連する生産も下振れする動きをみせる一方、鉱物資源関連や鉱物資源関連の生産に底堅い動きがみられるなど、外需を取り巻く環境の不透明感の高まりを反映している可能性がある。国・地域別では、欧州向けや日本向けなどに底堅い動きがみられるものの、トランプ関税

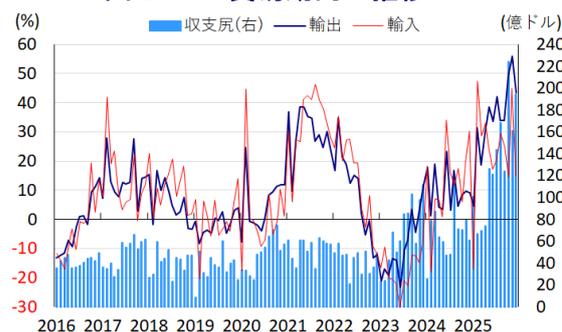
の本格発動を受けて米国向けが頭打ちするとともに、最大の輸出相手である中国本土向けの下振れも輸出全体の重しとなっている。一方の輸入額は前年同月比+14.9%となり、前月（同+45.0%）から伸びが鈍化している。前月比も▲10.8%と前月（同+29.2%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるも、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出同様に底堅い動きが続いている。財別では、化学製品関連の輸入に底堅い動きがみられるものの、輸出の先行きに不透明感が高まるなか、生産活動に必要な機械製品関連のほか、金属関連など素材、部材関連の輸入が下振れする動きがみられる。結果、貿易収支は+194.33億ドルと前月（+160.85億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移

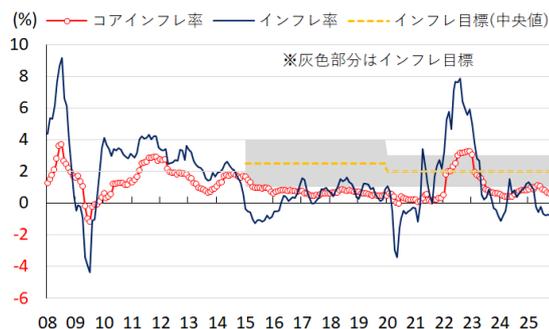


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [タイ]～食料品価格の下落に加え、通貨バツ高も財価格の重しに、全般的にデスインフレ基調が強まる～

7日に発表された12月の消費者物価は前年同月比▲0.28%と9ヶ月連続のマイナスとなるも、前月（同▲0.49%）からマイナス幅は縮小している。前月比は+0.04%と2ヶ月連続で上昇するも、前月（同+0.15%）からそのペースは鈍化するなど、インフレ圧力が強まる状況とはなっていない。国際原油価格の調整の動きなどを反映してエネルギー価格は下落基調が続く一方、生鮮品や穀物などをはじめとする食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。その結果、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.59%と前月（同+0.66%）から鈍化しており、6ヶ月連続で中銀が定めるインフレ目標（ $2 \pm 1\%$ ）の下限を下回る伸びで推移している。前月比も▲0.02%と前月（同+0.14%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、金融市場における通貨バツ高を受けた輸入物価の下押しも重なり、幅広く財価格が下振れする動きがみられる。さらに、景気の不透明感の高まりを受けてサービス物価にも下押し圧力がくすぶり、全般的にデスインフレ基調が強まっている。

図3 TH インフレ率の推移

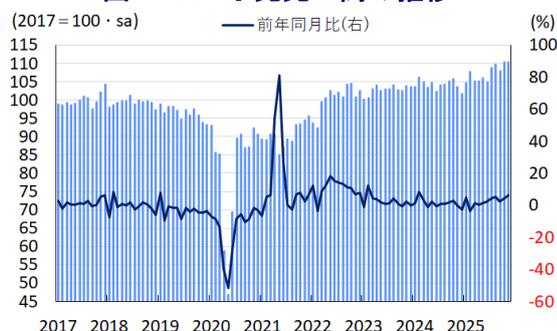


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～自動車や高額品、娯楽関連で需要下振れも、幅広い分野で個人消費に底堅さがうかがえる～

5日に発表された11月の小売売上高は前年同月比+6.3%となり、前月(同+4.4%)から伸びが加速している。前月比は+0.02%とわずかではあるものの、前月(同+2.35%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。なお、同国においては次ごとの自動車販売が小売売上高全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲4.88%と前月(同▲1.41%)から2ヶ月連続で減少しており、頭打ちの動きを強めている。よって、自動車を除いたベースでは前月比+0.80%と前月(同+2.97%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど堅調に推移している。宝飾品など高額消費のほか、余暇消費が弱含む動きがみられるものの、通信機器や家電、家具など耐久消費財に対する需要は堅調な動きをみせるとともに、日用品に対する需要も底堅い動きをみせるなど、全般的な個人消費に堅調さがうかがえる。

図4 SG 小売売上高の推移



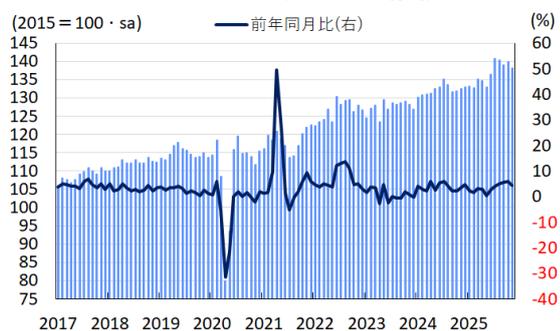
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～半導体関連の生産は引き続き堅調も、鉱業、製造業問わず幅広い分野で生産に下押し圧力～

9日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+4.3%となり、前月(同+6.0%)から伸びが鈍化している。前月比も▲1.32%と前月(同+0.66%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。商品市況の調整の動きが重しとなる形で鉱業部門の生産は3ヶ月連続で減少するとともに、製造業の生産も減少に転じるなど、幅広い分野で調整圧力が強まる動きがみられる。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産は引き続き旺盛な推移が続いているものの、自動車など輸送用機械関連の生産は力強さを欠くほか、金属関連や重化学工業関連の生産で軒並み下振れする動きが確認されるなど、分野ご

とのバラつきがこれまで以上に鮮明になっている。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。